

交通安全啓発リーフレットを活用した授業展開例（中学校以上用）

- 1 日 時 令和〇年〇月〇日（〇） 第〇限
- 2 学 級 〇年〇組 〇名（男子〇名、女子〇名）
- 3 学 級 感 〇〇・・・〇〇
- 4 題 材 名 あなたとみんなの命を守る「ちばサイクルール」
- 5 教 材 交通安全啓発リーフレット及びワークシート
- 6 本時の目標
- （１）千葉県内の自転車の交通事故の現状について、事故の特徴や原因等を理解させる。
 - （２）「千葉県自転車条例」にもとづく「ちばサイクルール」について知らせ、自転車に乗る前、乗るときの安全利用について遵守する態度を養う。
 - （３）「自転車運転者講習」の対象となる１５項目について理解させ、規範意識を育成する。
 - （４）事故の加害者としての責任を考えさせるとともに、自転車保険等への加入の必要性を理解させる。
 - （５）ヘルメット着用の有効性を知らせ、自分の命を守るための行動がとれる態度を養う。
 - （６）ヒヤリ・ハット体験を共有することで、事故防止に向けた的確な判断力を養う。



7 学習展開

段階	時間	学習内容・学習活動	学習活動の支援・指導上の留意点
導入	10分	1. 自転車安全利用のルールについて、○か×で答える。 【ワークシート例p. 1】 2. 千葉県内の自転車の交通事故の現状について、資料から理解する。 【ワークシート例p. 2】	1問ずつ生徒を指名して解答させ、解説する。 Q1 ○ 車両のうち、軽車両に分類されます。 ＜道路交通法での自転車の位置づけ＞ 車 両 … 自動車、原動機付自転車、トローリバス、軽車両 ↳ 軽車両 … 自転車、自転車以外の軽車両（荷車、馬車等） Q2 × 自転車も歩道を通行できますが、歩行者優先です。歩行者の通行の妨げとなる場合は自転車から降りて、押して通行します。 Q3 × 車道の左側に沿って通行します。 Q4 × 自転車は車両です。交通標識を守りましょう。 Q5 × 安全運転義務違反です。雨天時は合羽で。 Q6 ○ 安全ルールの違反は罰則があります。 Q7 × 夜間、前方10mの距離にある交通上の障害物を確認することができる性能を有する前照灯をつけなければなりません。 Q8 ○ 令和4年7月から保険の加入が義務化となり、利用者が未成年の場合は、保護者に義務が課せられます。 Q9 × 令和5年4月から、自転車を運転するすべての人がヘルメットをかぶることに努めなければならないとされています。（努力義務化） Q10 × 交通事故を起こした場合、ただちに負傷者を救護し、警察に事故を連絡します。 ※Q10については、★交通事故があったら…で事故に遭遇した場合の対処方法を丁寧に説明する。 ○<u>自転車事故の特徴について（リーフレットから）</u> 子どもや若者（24歳以下）、高齢者（65歳以上）の死傷者数が多いことに気付かせる。 ・子どもや若者、高齢者の死傷者数は、自転車事故全体の約55%である。 ・自転車事故の7割以上が交差点（交差点付近を含む）で発生している。



段階	時間	学習内容・学習活動	学習活動の支援・指導上の留意点
展開	30分	3. 「千葉県自転車条例」にもとづく「ちばサイクルルール」の内容について知る。特に自転車保険等の加入は義務化、ヘルメット着用は努力義務化となっているため、保険加入の重要性やヘルメット着用の有効性について理解を深める。 【ワークシート例p. 3～6】 ※必要に応じて、リーフレットの二次元コードから「自転車交通安全参考動画」を読み取り、視聴する。 ～自転車に乗る前のルール～ ○自転車保険に入ろう ○点検整備をしよう ○反射器等を付けよう ○ヘルメットをかぶろう ○飲酒運転はやめよう ～自転車に乗るときルール～ ●車道の左側を走ろう ●歩いている人を優先しよう ●ながら運転はやめよう ●交差点では安全確認しよう ●夕方からライトをつけよう 4. 「自転車運転者講習」の受講対象となる15項目の危険行為について理解する。 【ワークシート例p. 7】 5. 「ハインリッヒの法則」から、交通事故の特性を理解する。 【ワークシート例p. 7】 6. ヒヤリ・ハットした体験について、グループで話し合う。 【ワークシート例p. 8】	「ちばサイクルルール」の内容について、「千葉県自転車条例」と関連付けながら、ワークシートの穴埋めをさせ、適宜、解説する。とくに自転車条例で定められた自転車保険等加入の義務化や保険加入の重要性、道路交通法で定められたヘルメット着用の努力義務化やヘルメット着用の有効性については丁寧に説明する。 ○自転車保険等の加入の義務化について（令和4年7月1日から） 自転車事故の約1割が加害事故である。自転車は「車両」であるという認識に基づいて、事故事例を通して、加害事故を起こした場合、どのような責任を負うか考えさせる。 ・刑事上、民事上、道義的な責任とは何か。 ・被害者やその家族の思いはどうか。など 万一に備えるためにはどのようにしたらよいのか考えさせ、自転車保険等の加入が必要であることに気付かせる。また、令和4年7月から自転車保険の加入が義務化されたことを伝え、自転車保険の加入の有無を保護者に確認させる。 ○ヘルメットの着用の努力義務化について（令和5年4月から） 転倒時の頭部への衝撃値を約60%減少させることから、ヘルメットの着用が有効であることを気付かせる。また、交通事故や転倒したときの衝撃から頭を守るために、あごひもを確実に締めるなど正しく着用するように伝える。 ○反射器等やライトの有効性、「ながら運転」の危険性について 反射器等を装着し、ライトをつけることで、周囲を確認できるだけでなく、自分の存在を相手に知らせる上で、有効であることを気付かせる。 また、「ながら運転」とは、どのような運転であるか認識させるとともに、なぜ危険な行為であるのか、事故事例を通して考えさせる。 《通行に関する「ちばサイクルルール」について》 自転車は車両の仲間であり、走行のルール遵守や交通事故の多い交差点等での安全確認の事例を紹介する。また、歩道は歩行者が最優先であり、気配りや思いやりを持った通行を確認する。 15項目について、ワークシートを穴埋めさせ、適宜、どのような行為が違反か説明する。また、「自動車運転者講習」の流れについて解説する。また、命令を無視して受講しないと、5万円以下の罰金となることも補足する。 「自転車指導警告カード（イエローカード）」は、違反行為をした場合、警察から警告を受けた際にももらうもので、「自転車運転者講習」の要件とは異なることを留意する。 「ハインリッヒの法則」について説明し、交通事故防止に向けて、どのようなことが大切か理解させる。 【例題1】、【例題2】について、グループで意見を共有させ、事故を防止するにはどうすべきか考えさせる。また、結果をグループごとに発表させる。学校周辺の危険な箇所について話し合ってもよい。
まとめ	10分	7. 「自転車安全運転チェックシート」で自分の運転を振り返り、「自転車点検整備チェックシート」で点検整備のポイントを知る。 【ワークシート例p. 9】 8. 交通事故体験記を朗読する。本時の学習内容を振り返る。 【リーフレット】	「自転車安全運転チェックシート」を活用し、普段の自転車の乗り方について見直させる。できていないところはどのようなところが発表させてもよい。 「自転車点検整備チェックシート」は自転車の実物で説明してもよい。放課後等、適宜、活用を図るよう留意する。 交通事故体験の手記から、被害者も加害者も不幸となることを気付かせるとともに、「ちばサイクルルール」の内容を振り返りながら、自転車の安全利用について再確認させる。

各学校の実情に応じて、内容を省略したり、時間配分を変更したりする等、工夫して御利用ください。